

山雲水月

発行責任者 龍源寺 住職 渡辺龍道

平成19年丁亥 住職年頭挨拶



謹賀新年

ぶじこれきじん
「無事是貴人」
りんざいぎげん
臨濟義玄禪師
『臨濟録』より



「無事是貴人」の言葉は、臨濟宗の宗祖である臨濟義玄禪師の言葉です。禪師の著書『臨濟録』という禅の公案集に、「無事是貴人なり。ただ造作することなかれ、ただ是れ平常なれ。」とあります。つまり、あれこれと思案をめぐらせてその思いや妄想にとらわれることなく、その時その時の一事一事を精一杯に行うことが大切だ、と示されているのです。

禅語というと、難しい言葉で書かれとっつきにくい印象があるかもしれませんが、ごくありふれた毎日の生活のなかで、何気なく用いられているものです。禅の心は特別なものではなく、このようなあたり前の平凡な日常の中にあるものです。

皆様に於かれましては、本年も宜しくお願い申し上げます。

平成19年 龍源寺年間行事予定

- 1/1~1/3 年頭祈禱
- 1/3~1/7 年始挨拶
- ※2/3 大節分会
- ※2/15 釈尊涅槃会
- ※3/12 大般若・大施食会
- ※3月中旬 筆供養法要
- 3/18~3/24 春季彼岸会
- ※4/8釈尊降誕会(花祭り)
- 4/29 大施食会兼蚕影山例祭法要
- 7/13~7/16 京浜地区檀信徒棚経
- ※7月下旬 第26回子供禅の集い
- 8/13~8/16 孟蘭盆会
- 9/20~9/26 秋季彼岸会
- ※10月中旬 参拝研修旅行
- ※12/8 釈尊成道会
- ※12/31 除夜会
- ※毎週土・日曜日 書道教室
- ※毎週水曜日 定期坐禅会
- ※隔週水曜日 梅花講稽古・華道教室
- ※は御本寺仁叟寺にて開催

平成19年 年回表

一周忌	平成十八年	二十三回忌	昭和六十年
三回忌	平成十七年	二十七回忌	昭和五十六年
七回忌	平成十三年	三十三回忌	昭和五十年
十三回忌	平成七年	五十回忌	昭和三十三年
十七回忌	平成三年	百回忌	明治四十一年

- ※1 以上、各ご家庭に於いてご確認下さい。
- ※2 該当檀信徒各家には封書にて通知が届きます。

曹洞宗群馬県宗務所梅花主事を拝命



↑ 昨年秋に開催された梅花講県大会風景

昨年12月より、群馬県の曹洞宗寺院を統括する宗務所に梅花主事として勤務をすることになりました。以前、仁叟寺に宗務所があったのでご存知の方も多いかと思われませんが、責任ある仕事ゆえ、気を引き締めて事に臨んでいく所存です。

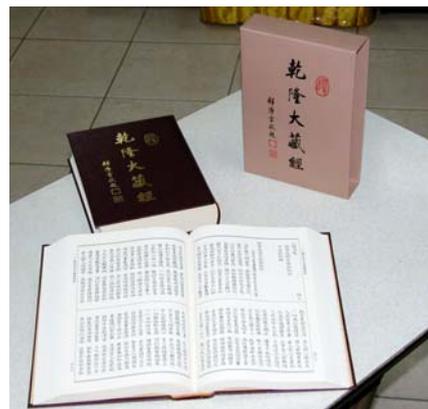
梅花主事とは、県内各寺院にある梅花講やその講に所属する詠範さんや講員さんの情報管理のほか、梅花講関連の行事を行ったりする際にその事務を行います。

宗務所の任期は四年間で勤務日は週に三日あります。また諸行事などで長くお寺を空けることも多々あるかと思われま。檀信徒の皆様には、ご迷惑をお掛けすることもあるかと思われま。すが、宜しくご理解ご協力の程、お願い申し上げます。

けんりゅうだいぞうきょう

仁叟寺通信-19- 乾隆大藏經寄贈

仁叟寺住職の実弟であり東洋大学文学部教授の渡辺章悟じょうしゅうがつかい氏の紹介で、台湾の仏教布教組織である浄宗学会さまより乾隆大藏經121巻が寄贈されました。大変貴重な經典で全121巻（内1巻は総覽）にも及びます。仁叟寺では保管場所として、欣光閣の北側の電算室隣に新たに書庫を建立いたしました。書庫には他にも古くから伝わる多くの經典のほか、仏教・禅・美術などの蔵書が納められています。重要かつ貴重な經典の寄贈、誠にありがとうございました。



↑ 寄贈された乾隆大藏經

龍源寺探索-16-

のこ とうしんとく
当寺に遺されている庚申塔 ↓ →

今回の探索では、当寺に遺されている庚申塔を紹介いたします。庚申塔は庚申講が行われた際に記念として建立された石塔のことをいい、「庚申」「庚申塚」とも彫られる場合があります。庚申講は、中国から伝来した行事で、枕草子にもその記述が見られますが、江戸期に民間に広まった行事です。庚申の日に村中の人が集まり、神仏を祀り夜を明かす同行事は、明治期に廃止令が出るほど盛んでしたが、現在ではほとんどみられません。当寺の庚申塔は石仏石塔を集めた境内の一角に遺されており、この地においても庚申講が行われ神仏を敬う行事が行われてきたことを示す歴史的民俗的史料といえるものです。



総代人交代のお知らせ

長い年月に亘って当寺の総代長を務めていただいた宇佐美源吾翁（多胡）が、今年4月29日の大施食会兼蚕影山例祭と共に開催される檀信徒総会を契機に当山顧問となり、その任を退きます。後任には、総代人の小林茂氏（矢田）が総代長として任に当たります。

それに伴い、総代人の交代が行われます。田端良作総代人（多比良）に代わり出牛裕一氏（松田）と田中忠男氏（多胡）の両名が新たに総代人として当寺の護持運営に当たってくださいます。

顧問となる宇佐美翁は、90歳という高齢にも関わらず矍鑠として健康。現在でも農作業はじめ労働に勤しんでおります。当寺の役員、総代、総代長として30年以上もの長きに亘り尽力をしてくださいました。当寺として厚く感謝申し上げますと共に、その徳行を顕彰し、総会の際に感謝状と記念品を差し上げる予定であります。ありがとうございました。

4月29日総会以降の 当寺総代役員会配役

顧問	宇佐美源吾翁（多胡）
総代長	小林茂氏（矢田）
総代人	出牛裕一氏（松田）
総代人	田中忠男氏（多胡）
筆頭役員	田端良作氏（多比良）

かくしゃく

竹林清掃事業報告



← 密集した竹をすき、
すっきりした当寺の竹林

一昨年から行っている当寺竹林の間伐作業が、
漸く終了いたしました。密集していた孟宗竹を枯
れているものを中心に伐採。鬱蒼としていた竹林も
向こう側が見えるくらいにすっきりいたしました。

この竹林の葉が厄介もので、本堂や庫裏の屋根から樋に入り詰まってしまうたり、屋根の木材を腐らせてしまったこともありました。今回は特に、本堂や長屋門会館など建物周辺の竹を大幅に伐採いたしました。

また、前号の「山雲水月」紙上で広報いたしましたように、伐採した竹をお分けいたします。必要な方は、当寺までご一報下さい。

かんぼう

ようや

もうそうちく

うっせう

やっかい

→ 修道クン

次男 修道誕生

昨年夏の7月5日に、住職の次男である修道クンが誕生いたしました。地元吉井町の広報紙で、「7月になって最初に誕生した赤ちゃん」というコーナーで紹介されたので、ご存知の方もおられるかと思えます。修道（しゅうどう）と命名いたしました。宜しく申し上げます。

また、長男の哲道クンは2歳半になりました。兄弟仲良くすくすくと育てて欲しいものです。



【特別寄稿】秋の越後路を訪ねて 篠崎宏

去る10月28日、秋の恒例の檀信徒研修旅行に、夫婦共に参加させていただき、この上ない幸せに預かりました。先ずもって、厚く御礼申し上げます。

当日は、天候に恵まれた仁叟寺晴れの日でした。参加者42名は異口同音に良かったの連発の一語でありました。バスは和やかな会話の中に、研修地である三つの寺院へ到着をしました。



↑ 魚沼小出の林泉庵さまに於いての集合記念写真

始めに林泉庵さま。鳴き龍りんせんあんで有名。一つに延命長寿を願い、一心に手を合わせ鳴き龍の音を聴く様は、一種独特のポーズに見えました。特に休憩室に掲げてあった「古徳示衆」の文字が光っていた。本堂は総檜造で壮観であり、また住職さまはじめ温かい人間味溢れる寺院でありました。

次に西福寺さま。バスの中でビデオ研修を行いました。特に幕末の名匠、石川雲蝶いしかわうんちょうの大作ともいえる曹洞宗の開祖道元禅師様を題材とした素晴らしい彫刻、絵画などが目を引きました。開山堂天井の大彫刻は、彫刻の中の生物が本当に動いているような迫力を感じました。

次いで雲洞庵さま。この寺院は「女人成仏」の寺として知られ、特に女性の参拝信仰を集めているそうです。また、赤門より本堂に至る石畳の下には、法華経を一石一字つづ刻まれており、功德ある石畳の上を歩き参拝をいたしました。

ほか、八海山にも寄り、ロープウェーに乗って紅葉真っ最中の山雲海に入りし、高原の空気を満喫しました。

この参拝研修旅行では、文字通り俗界から離れる経験をさせていただきました。楽しい旅ができました。ありがとうございました。合掌

行雲流水（編集後記）

編集人 住職 渡辺龍道

新年、明けましておめでとうございます。昨年は、当寺歴代住職及び寺族墓地の改修、次男の誕生、曹洞宗群馬県宗務所への勤務開始などなど公私共々さまざまな事がありました。今年は、

足掛け六年に及ぶ仁叟寺の寺誌編纂事業じしへんさんじぎょうが漸く終了する予定でもあります。長い間、寺誌編纂事業に携わり、多くの方々と貴重なご縁を結ぶことができました。改めまして、感謝申し上げます。また、旅行の紀行文を書いて下さった当寺檀徒の篠崎宏さん、どうもありがとうございました。当寺及び仁叟寺では坐禅会・梅花講・華道教室・書道教室の各教室のほか、除夜会・節分会・花祭り・研修参拝旅行などをはじめとする各種の伝統仏教行事も広く行なっております。是非、お寺やお墓に足を運び、手を合わせ感謝をする時間を持っていただきたく思っております。

